

2022年1月実績概要（メモ）

（2022. 2. 17）

エチレン等の製造装置の定修入りに伴い基礎原料の供給減もあり、誘導品分野での減産影響がみられる。

1. 生産動向

イ) エチレン 507, 500トン

前月比 ▲12.0% (▲69, 100トン)

前年同月比 ▲6.1% (▲32, 900トン)

| 生産増減に係る諸要因 | <前月比> | <前年同月比> |
|------------|---------|---------|
| 日数増減 | — | — |
| 定修要因等 | ▲ 8.7 % | ▲ 0.6 % |
| 能力増減 | — | — |
| 稼働率変動 | ▲ 3.3 % | ▲ 5.5 % |
| 生産増減率 | ▲12.0 % | ▲ 6.1 % |

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.4%* → 当月94.2% ← 前年同月99.2%
定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、稼働率要因や定修規模差から、LDPE、HDPE、PP、SM、EO、EG、SBR、ベンゼン、キシレンなどの15品目がマイナス。塩ビ樹脂、ANの2品目のみはプラスとなった。

前年比でも、同様に稼働率要因や定修規模差等から、PP、SM、MMAモノマー、ベンゼンなどの9品目がマイナス。PS、塩ビ樹脂、EG、ANなどの8品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、定修入りや稼働率要因からLDPE、HDPE、PP、PSの4樹脂でマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からLDPE、PPはマイナス。HDPE、PSは若干のプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、昨年末から国内の工業生産全般で低下が見られたほか、企業の生産活動の業況判断でも低下が見られている。また、消費動向でも足踏み状態になるなど年を境に潮目に変化しつつある。

汎用樹脂の出荷でも同様に年末にかけて、出荷の弱含みの徴候が見られはじめ、当月は年始休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少や減産要素も加わり、LDPE、HDPE、PP、PSともにマイナスとなった。

前年比でも、4樹脂で前年割れとなった。分野別の出荷状況としてはLDPEはフィルム分野、PPは射出成形分野、PSは、電機・工業用分野を中心に出荷の減少がみられた。また、HDPEはほぼ全用途で小幅な減少が見られた。

ハ) 輸出

前月比では、世界的な物流網の混乱が続くとともに、中国の春節前の取引の停滞もあり、LDPE、PP、PSでマイナス。HDPEはこれまでの水準がやや低めであったこともあり当月はプラスとなった。

前年比でも、ポリオレフィン3樹脂で減少が継続しているほか、前月にプラスとなったPSも当月は微減に転じた。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、HDPE、PP、PSで増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPEは僅かながら低下したが、HDPE、PP、PSは上昇した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PSともやや高めの水準となっている。

| | 前月対比増減量 (単位:トン) | 季節調整済在庫率 (単位:ヶ月) | |
|------|--------------------|------------------|-----|
| | | 12月末 | 1月末 |
| LDPE | +17,000 | 3.5 | 3.4 |
| HDPE | +9,500 | 3.3 | 3.8 |
| P P | +28,300 | 3.0 | 3.4 |
| P S | +10,100 | 1.6 | 2.1 |

以上

前月からの修正を*で付記